HITATCHI

FLORA 270W NW6

3 ハードウェアを使いこなす

マニュアルはよく読み、保管してください。
・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
・このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

このマニュアルの使い方

このマニュアルでは、周辺機器の接続方法、日常のお手入れ、技術情報を説明しています。必要に応じてお読みください。

■「1 章　バッテリーを使う」
バッテリーの使い方について説明します。

■「2 章　周辺機器を接続する」
パソコンに周辺機器を接続する方法を説明します。

■「3 章　日常のお手入れ」
パソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。

■「4 章　技術情報」
パソコンの仕様、有償部品やオプション情報について説明します

マニュアルの表記について

重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイスです。
参照	参照先を示します。

マニュアル内で使用している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、一部省略している場合があります。また、特に記述のない限り、画面はすべて Windows XP のものです。

もくじ

1 章

バッテリーを使う

この章では、バッテリーでパソコンを使う方法やバッテリーの上手な使い方について説明します。

バッテリーの充電

バッテリーでパソコンを使うには、バッテリーを充電する必要があります。

1 パソコンの電源を切り、バッテリーパックを取り付ける。

2 AC アダプターをパソコンに接続する。

▼充電が始まる。充電中はバッテリーランプが点灯し、満充電になると消灯する。

⚠警告

- ◎ バッテリーパックは必ずパソコンに取り付けて充電してください。
- ◎ バッテリーパックは同梱のものかオプション指定されたものを使用してください。それ以外のものを使用すると、電圧、最大出力電流および＋－の極性が異なっていることがあるため、火災の原因になります。

参照

バッテリーパックの取り付け方→『パソコンを準備する』１章の「接続しよう」

重要

- ◎ バッテリーの残容量が 80%以上の際は充電を開始しません。

充電時間

パソコンの電源を切って充電

約 3 時間

パソコンを使用しながら充電

約 3 時間

充電状態の確認

充電状態はインジケーターランプで確認します。

充電中

バッテリーランプが点灯

満充電

バッテリーランプが消灯

重要

◎ 放電しきったバッテリーパックや充電せず長期間放置 (過放電状態に) したバッテリーパックでは、充電できない場合があります。充電できる場合は、通常時に比べ、充電に時間がかかることがあります。また、バッテリーランプが消灯しても満充電にならない場合があります。Windows の電源メーターで確認し、充電が不十分な場合は、バッテリーパックを取り付け直して再充電してください。

ヒント

★ バッテリーの充電時間は、パソコンの使用環境、周辺機器の接続状況、バッテリーパックの劣化状態などに応じて異なります。

★ バッテリー充電時間は、標準バッテリーでも大容量バッテリーでも同じです。

★ パソコンを使用できる環境（温度、湿度）でバッテリーパックを充電しないと、満充電にならないことがあります。

★ AC アダプターでパソコン使用時、充電状態のバッテリーパックを取り付けていると瞬時停電のときにも対応できます。

★ 放電直後などでバッテリーパックの温度が高いと、バッテリーランプが点灯するまでに時間がかかることがあります。

バッテリーでの動作時間

ここでは、バッテリーの動作時間と動作時間を長くする方法について説明します。

バッテリーでの動作時間

バッテリーでの動作可能時間は、満充電の状態で、標準バッテリーで約 1.5 時間、大容量バッテリーで約 3 時間です。

ヒント

★ 動作可能時間は、次の環境で、JEITA バッテリー動作測定(Ver.1) により測定、算出した値です。
・動画ソフト：Windows Media Player
・画面輝度：最低輝度

動作可能時間を長くするには

バッテリーを長時間使用するには、次の方法で消費電力を抑えて節電してください。

節電機能を使う

節電機能を使うように設定しておくと、一定時間パソコンを操作しないでいると消費電力を抑えます。ディスプレイを閉じることでも節電機能が働きます。また、長い時間使わないときは、電源を切っておきます。

参照

節電機能の設定について→電子マニュアル『使い勝手を良くする』の２章「消費電力を節約する」

画面を静止させたり、画面の明るさを下げる

■画面を静止させる
スクリーンセーバーなどの画面保護機能を使うときは、「模様なし」(静止画) を選んでください。
■画面の明るさを下げる
[Fn] ＋ [F8] (☼－) キーを押してディスプレイの明るさを下げると、消費電力を抑えられます。

音量を下げる

スピーカーボリュームで音量を下げると、消費電力を抑えられます。

バッテリーの容量を確認する (Widnows NT 以外)

ここでは、バッテリー容量の確認方法と、バッテリー容量が少なくなったときの設定について説明します。
どちらも Windows の [電源の管理] または [電源オプション] で行います。

[電源オプション]([電源の管理]) の開き方

1 [スタート]ボタン−([設定])−[コントロールパネル]をクリックする。

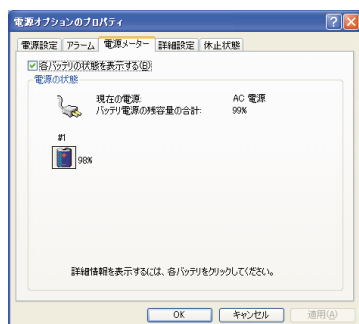
▼ [コントロールパネル] が表示される。

2 [電源オプション]([電源の管理]) をクリックする。

▼ [電源オプションのプロパティ]([電源の管理のプロパティ]) が表示される。

容量を確認する

1 [電源オプションのプロパティ]([電源の管理のプロパティ]) の [電源メーター] をクリックする。

▼ バッテリーの容量を確認できる。

Windows XP の場合

Windows 98 の場合

ヒント

★ OS によって [電源の管理] や [電源オプション] など名前や画面が多少異なります。ここでは、Windows XP、Windows 98 を例に説明します。

ヒント

★ Windows XP の場合、[コントロールパネル] に [電源の管理] アイコンが表示されていないときは、「クラシック表示に切り替える」をクリックするか、「パフォーマンスとメンテナンス」のカテゴリを選択すると表示されます。

★ [バッテリメーター]（[電源メーター]）は、タスクバーの電池のアイコンをダブルクリックして開くこともできます。

ヒント

★ 使用環境や動作状態などで容量の値が大きく変動したり正確な値が表示されないことがあります。

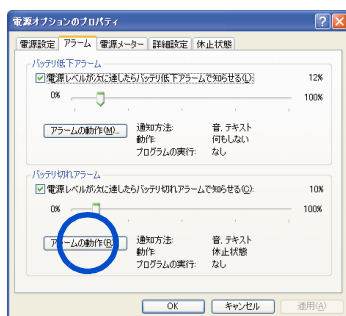
★ バッテリーパックを取り付けた直後は、実際の容量と表示される容量の誤差が大きいです。一度、満充電にすると誤差は小さくなります。

★ バッテリーパックが満充電でも 100%と表示されないことがあります。

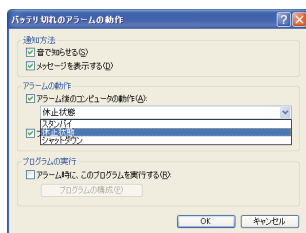
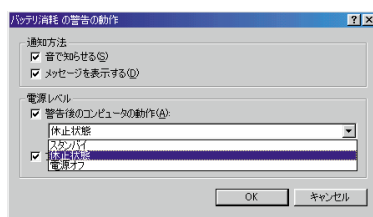
バッテリーの容量が少なくなったときの設定

バッテリーの容量がわずかになったとき、パソコンをどうするかを設定できます。標準では、休止状態が働くように設定されています。
このほかの設定は標準値のままお使いください。

1 **[電源オプションのプロパティ]([電源の管理のプロパティ]) の [アラーム] タブをクリックする。**

2 **[バッテリ切れアラーム]([バッテリ消耗の警告]) の [アラームの動作]（[警告の動作]) ボタンをクリックする。**

Windows XP の場合

Windows 98 の場合

3 **「電源レベル」の「アラーム後のコンピュータの動作」（ [警告後のコンピュータの動作]) にチェックをつけ、[スタンバイ]、または [休止状態] を選び、[OK] ボタンをクリックする。**

Windows XP の場合

Windows 98 の場合

4 **[アラーム] タブで [適用] ボタンをクリックする。**

上手にバッテリーを使う

ここでは、上手なバッテリーの使い方を説明します。

標準バッテリー (AB6010) に適した使用環境

標準バッテリーの使用の際の動作条件には制限があり、主に次のような使用環境に適しています。
・通常、AC アダプターでの使用がメインで、停電時のリカバリとして使用する場合
・スタンバイ状態でのオフィス間の移動の際など、AC アダプターが使用できない時の状態保持として使用する場合
・主に、低負荷での使用の場合（常に CPU に負荷の掛かる計算ソフトや、多数のアプリケーションを同時に実行できない）
・寒冷地では、起動時の残量表示が極端に少なくなります。

大容量バッテリー（AB6000AA）に適した使用環境

・通常、モバイル環境（バッテリー）での使用がメインの場合
・主に、高負荷（常に CPU に負荷の掛かる計算ソフトや、多数のアプリケーションを同時に実行させる）使用環境の場合
・バッテリー動作時間を長持ちさせたい場合

バッテリー使用前に、必ずバッテリーを充電する

バッテリーでのご使用の際は、事前に必ず充電してください。特に、AC アダプターを接続しないで電源を入れる場合、起動に多くの電力を消費しますので、残量が少ない場合では正常に電源が入らない場合があります。

過放電しない

満充電のバッテリーパックをパソコンに取り付け、AC アダプターを接続せずに1ヶ月以上使用しないと過放電になります。また、残量の少ないバッテリーパックをパソコンに取り付けて 2 ～ 3 日放置すると、過放電になります。過放電したバッテリーパックは、充電が始まるまでに数時間かかったり、充電できる容量が少なくなります。また、過放電がひどくなると、そのバッテリーパックは使用できなくなることがあります。

ヒント

★ 標準バッテリーは、動作するアプリケーションの負荷が大きい場合、使用に制限を受けます。例えばバッテリー使用時にアプリケーションを多数動作させるような高負荷の使用条件では、大容量バッテリーが必要になります。

重要

◎ 標準バッテリーを高負荷で使用した場合、動作時間が短くなるばかりでなく、バッテリー残量警告が表示される前に、バッテリー保護により電源が切れることがあります。

参照

使用環境について→ 4 章の「パソコンおよび周辺機器を使用する環境について」(P.65)

AC アダプターとバッテリーパックを付けたまま長時間放置しない

バッテリーが満充電になったら、AC アダプターとバッテリーパックを差したまま長時間放置しないでください。AC アダプターを差していても、バッテリーは少しずつ放電して容量が減ります。バッテリーを再度充電するには、AC アダプターまたはバッテリーパックを接続し直してください。

長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は充電する

バッテリーは使用しなくても少しずつ消費されています。バッテリーの残量を確認し、15%以下であれば充電してください。また、長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は充電してください。

バッテリーパックの交換時期

ここでは、バッテリーパックを交換する方法について説明します。

交換時期

Windows NT 以外の場合

警告メッセージが表示されたら、バッテリーの残量は 12%未満です。この状態を「Low Battery」といいます。Low Battery になったら、バッテリーパックを交換してください。Low Battery のまま放置し、残量が 10%未満になると、再び警告メッセージが表示され、[電源オプション]([電源の管理]) で設定した状態 (休止状態またはスタンバイ) になります。

■休止状態の場合
休止状態は、現在の状態を保存して電源が切れます。AC アダプターを接続するか、満充電のバッテリーパックと交換してから電源を入れてください。

■スタンバイの場合
すぐに AC アダプターを接続してください。スタンバイのまま放置するとバッテリーがなくなり電源が切れます。スタンバイから復帰するには電源スイッチを約 1 秒押します。

ヒント

★ パソコンの電源が切れていてもバッテリーは消耗します。1ヶ月以上使用しないときは、ときどき充電するか、パソコンからバッテリーパックを外してください。

★ AC アダプターを接続しなかったり、バッテリーを交換する前には、休止状態やスタンバイ状態から復帰させないでください。復帰には電力が多く使われるため、バッテリーが切れ、復帰しないことがあります。

★ ハードディスク、フロッピーディスク、CD-ROM を使用中に、スタンバイまたは休止状態が始まった場合は、復帰しても元の状態に戻らないことがあります。

★ スタンバイから復帰する際には、電源スイッチを 4 秒以上押さないでください。パソコンの電源が切れます。

交換方法

交換するバッテリーパックは、残量が 30% 以上で使用してください。

電源を切って交換

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **バッテリーパックを交換する。**

電源を切らずに交換

Windows NT以外のOSのパソコンでは、電源を切らずに交換することもできます。

1 **ACアダプターを接続する。**

2 **スタンバイ状態または休止状態にする。**

3 **10秒以上待ってからバッテリーパックを交換する。**

重要

◎ スタンバイ状態または休止状態にしないで交換すると、ハードディスクに衝撃が加わって故障する原因になります。

◎ バッテリーパックを交換した直後は、正確な残量表示ができないことがあります。いったん満充電まで充電するか、バッテリーを使い切ると正しい残量を表示します。

2 章

周辺機器を接続する

この章では、周辺機器の接続方法と使用方法を説明します。

周辺機器接続時に必要な設定

ここでは、周辺機器を接続したときに必要な設定とその参照先をまとめてあります。なお、次の表で「必要な設定」が「なし」となっている場合でも周辺機器に付属のマニュアルを参照し、必要な場合は設定してください。

◎ **接続する周辺機器には節電機能に対応していないものがあります。**
節電機能を使わないように設定してご使用ください。

周辺機器	必要な設定	参照先
マウス テンキーボード	なし	—
プリンター	プリンタードライバー	プリンター付属のマニュアル
ディスプレイ	・表示ドライバーの セットアップ ＊ ・画面の設定 (必要に応じて) ・マルチディスプレイ表示	電子マニュアル『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」 本章の「ディスプレイを複数接続する」(P.32)「マルチディスプレイ表示にする」(P.36)
マイク ステレオ スピーカー ヘッドホン	サウンドドライバーの セットアップ＊	『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
PC カード	割り込みの確保	—
モデム	モデムドライバーの セットアップ	『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
LAN	BIOS の設定＊	『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
USB 機器	デバイスマネージャ ＊	—

＊ 標準 (パソコン出荷時の状態) で、セットアップまたは設定済みです。

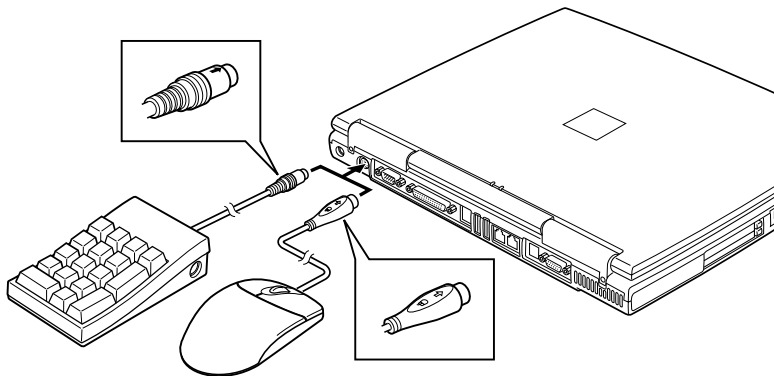
マウス、テンキーボード

ここでは、PS/2 仕様のマウスおよびテンキーボードの接続方法と、マウスの操作方法について説明します。

接続方法

Windows 98 で、ホイールマウスのスクロール機能を使うときは、接続後、ホイールマウスドライバーをインストールしてください。

どちらか片方だけ使う場合

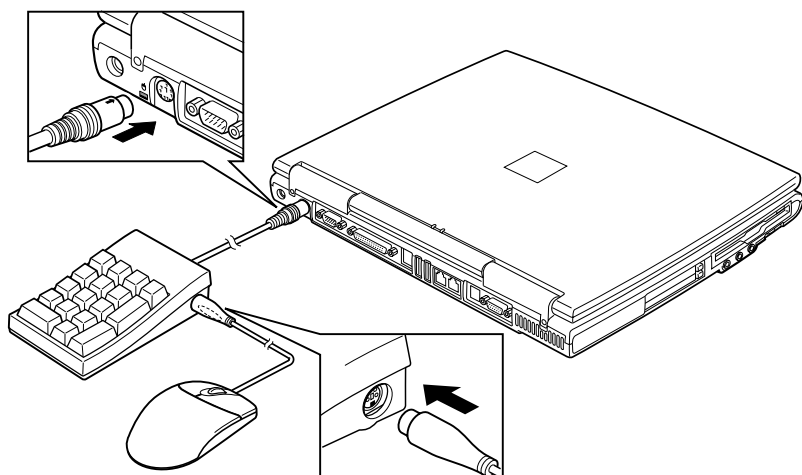
1 パソコン背面のマウス／テンキーボードインタフェースコネクターにマウスまたはテンキーボードのケーブルを接続する。

参照

USB 仕様のマウスやテンキーボードの接続のしかた→「USB 機器を接続する」(P.30)

ホイールマウスドライバーのセットアップ（Windows 98 の場合）→電子マニュアル『使い勝手を良くする』3 章の「付属ソフトウェアの使い方」「ホイールマウスドライバー」

- ◎ PS/2 仕様のマウスを接続すると、ポインティングパッドは使用できなくなります。
- ◎ コネクターの金属部には触らないようにしてください。マウスが動作しなくなることがあります。接続時に触れそうなときは、静電気を取り除くか、綿手袋をしてください。
- ◎ Windows NT では、ホイールボタンはご使用できません。

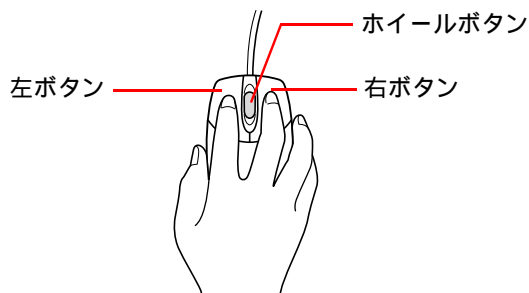
両方使う場合

1 **パソコン背面のマウス／テンキーボードインタフェースコネクターにテンキーボードのケーブルを接続し、テンキーボード側面のマウスコネクターにマウスのケーブルを接続する。**

◎ コネクターの金属部には触らないようにしてください。マウスが動作しなくなることがあります。接続時に触れそうなときは、静電気を取り除くか、綿手袋をしてください。

操作方法

マウスの持ち方

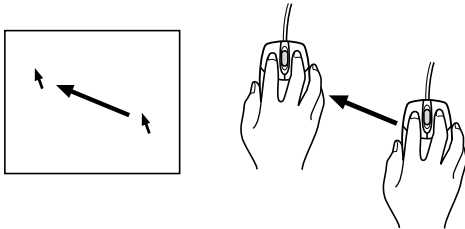
マウスを右手のひらで包み込むように持ち、人差し指を左ボタンに、中指は右ボタンにかかるようにします。

重要

◎ マウスを落としたり、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。

◎ マウスケーブルを引っ張ったり、マウスをぶら下げて運んだりしないでください。

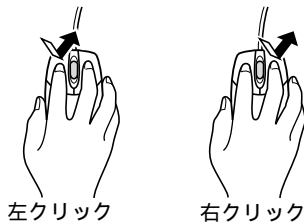
◎ マウスを凹凸がない水平な面で使用するときは、マウスパッドや紙などを敷いて使用してください。マウスは、ボールと滑走面との摩擦で動作するようになっているので、表面がツルツルした凹凸がない場所では正しく動作しないことがあります。

マウスポインターの移動

マウスを動かすと、マウスの動きに合わせてマウスポインターが画面上を動きます。

ポイント

マウスを動かし、マウスポインターを移動し目的の位置に合わせることを、「ポイント」といいます。

クリック

マウスのボタンを 1 回押します。

ダブルクリック

マウスの左ボタンを、2 回続けて押します。

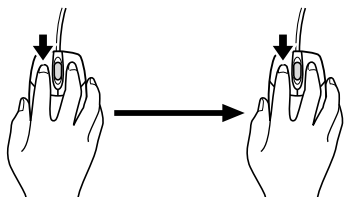
ヒント

★ ダブルクリックするときの速さは、[マウスのプロパティ] 画面で調節できます。

参照

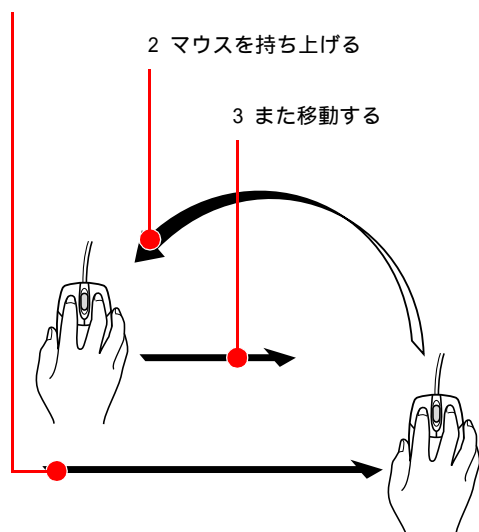
マウスの設定の変更について→電子マニュアル『使い勝手を良くする』1 章の「マウスを調整する」または［ポインティングパッド、マウスを調整する ］

ドラッグ

マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かします。

ドラッグアンドドロップ

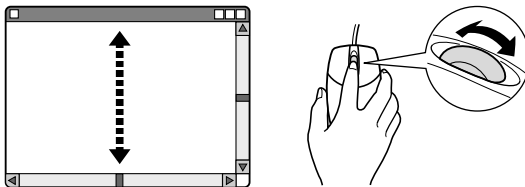
アイコンなどを左ボタンを押して選び、ボタンを押したまま別の場所に移動して指をはなすことを、「ドラッグアンドドロップ」といいます。ファイルの移動やコピーなどに使います。

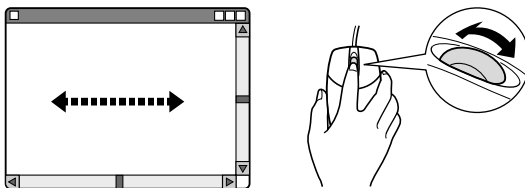
狭い場所でマウスを使う

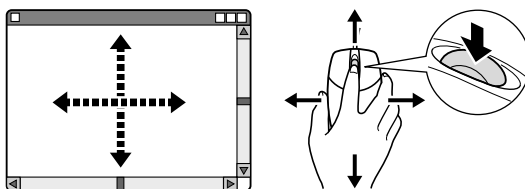
マウスポインターをもっと動かしたいのに、マウスを動かす場所がなくなってしまったら、いったんマウスを持ち上げて、元の場所からもう一度動かします。

スクロールする

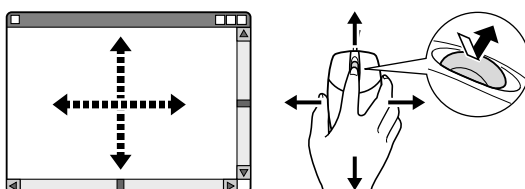
ウィンドウに表示されている内容を上下に移動して、見えない部分を表示することをスクロールといいます。
ホイールボタンを使うと、簡単にスクロールできます。ただし、Windows NT ではマウスのホイールボタンは使用できません。

●縦にスクロールする

ホイールボタンを回転させると、縦にスクロールします。

●横にスクロールする (Windows 98 の場合)

[Shift] キーと [Ctrl] キーを押しながらホイールボタンを回転させると、横にスクロールします。

●好みのスピードでスクロールする (Windows 98 の場合)

ホイールボタンを真下に押しながらマウスを上下左右に動かすと、好みのスピードでスクロールします。マウスの動きを止めても、ホイールボタンを離すまでスクロールは続きます。

●自在にスクロールする (Windows 98 の場合)

ホイールボタンをクリックしたあと、マウスを上下左右に動かすと、マウスを動かした方向とスピードに合わせてスクロールします。マウスの動きを止めてもスクロールは続きます。もう一度ホイールボタンをクリックすると、スクロールが止まります。

ヒント

★ 「好みのスピードでスクロールする 」と「自在にスクロールする」は、[マウスのプロパティ] の [ボタン] タブで、「自動スクロール」を設定した時の動作です。標準設定は、「自動スクロール」です。[ボタン] タブで、別の機能に変更できます。

★ アプリケーションによっては、表示の拡大/縮小や、表示内容の変更を、ホイールを使ってできます。詳細は、マウスのプロパティのヘルプをご参照ください。例えば、インターネットエクスプローラの場合は、[Shift] キーを押しながら、ホイールを回転すると、Web 頁の [進む] 、[戻る] ボタンと同じ動きをします。

ホイールボタンの使用について

■Windows XP、Windows 2000 の場合
・ホイール機能は、アプリケーションによっては、使用できないことがあります。
・中央ボタン（ホイール）の機能割り当てやスクロール機能の詳細設定などはできません。
・[マウスのプロパティ] の [ボタン] タブで、「スクロールサイズ」を [画面単位]、[なし] には設定しないでください。ホイール機能が使用できなくなります。
・[マウスのプロパティ] の [ボタン] タブで、スクロール、オートスクロール、ユニバーサルスクロールのオプションを [Office 97 互換スクロールのみ有効] に設定すると、Office 97 互換でないアプリケーションではスクロールできなくなります。

■Windows NT の場合
・ホイール機能は、使用できません。

■Windows 98 の場合
・ホイール機能は、アプリケーションによっては、使用できないことがあります。
・[マウスのプロパティ] の [ボタン] タブで、[MS Office 互換のスクロール機能のみ使用] にチェックを付けると、MS Office 互換でないアプリケーションではスクロールできなくなります。
・[マウスのプロパティ] の [ボタン] タブの各ボタンに割り当てられる機能で、ハイパージャンプなどのホイール機能以外の機能は、アプリケーションによって動作しないことがあります。

プリンターを接続する

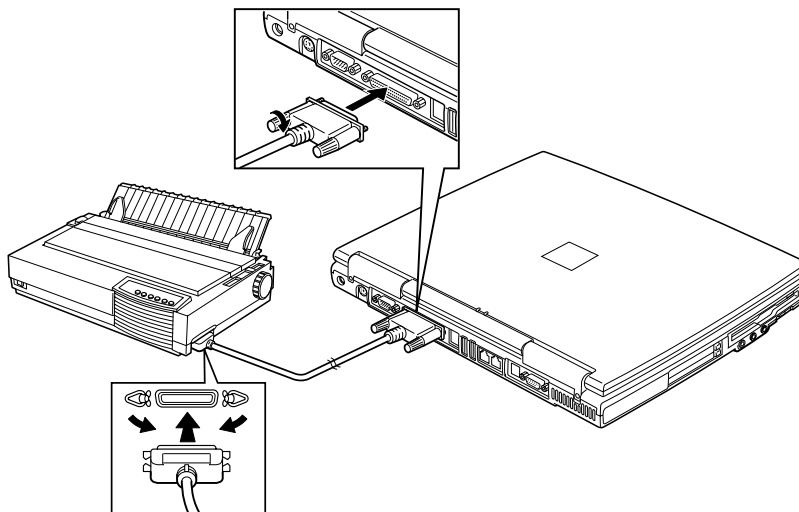
ここでは、パラレルプリンターの接続方法、ドライバーのインストール方法･削除方法、使用するプリンターの選択方法について説明します。

接続方法

1 パソコンの電源を切る。

2 パソコン背面のプリンターインタフェースコネクターにプリンターケーブルを接続する。

3 プリンターのコネクターにケーブルを接続し、バネ式ロックをかける。

プリンターのモード設定や用紙のセットなどを行う場合は､パソコンの電源を入れてから行う。

ヒント
★ プリンターを接続するときは、別売のプリンターケーブルをお買い求めください。

参照
プリンターケーブルについて→ 4 章の「オプション一覧表」(P.57)

ヒント
★ SCSI アダプターなど、弊社のオプション機器以外の装置をプリンターインタフェースコネクターへ接続すると、正しく動作しないことがあります。

参照
接続できるオプションについて→ 4 章の「オプション一覧表」(P.57)

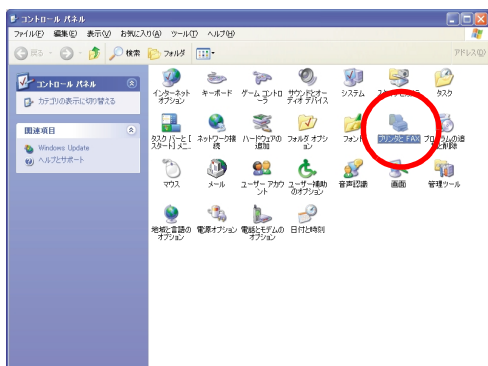
プリンタードライバーのインストール方法

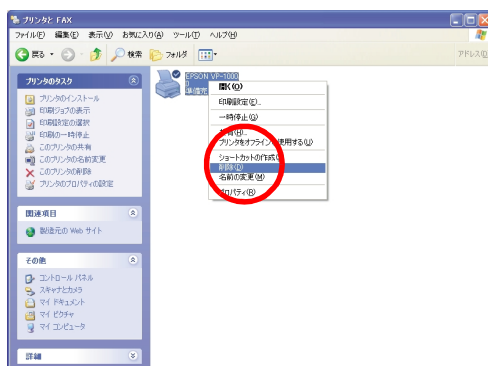
プリンターを使用するには、ドライバーのインストールが必要です。
プリンタードライバーのインストールについては、プリンターに付属のマニュアルをご参照ください。

プリンタードライバーの削除方法

パソコンからプリンターを取り外し、Windows からプリンタードライバーを削除するときは、次のようにします。お使いのプリンターにドライバーを削除（アンインストール）するユーティリティーがある場合は、そちらをお使いください。
次の説明は一般的な削除方法です。

1 ［スタート］ボタン－［コントロールパネル］－［プリンタと FAX］をクリックする。

▼［プリンタと FAX］ウィンドウが表示される。

2 削除するプリンターのアイコンを右クリックし、［削除］をクリックする。

ヒント

★ Windows 2000、Windows NT、Windows 98 の場合は、［スタート］ボタン－［設定］－［プリンタ］をクリックしてください。

★ ［コントロールパネル］は、［クラシック表示］で説明しています。

3 メッセージが表示されたら、[はい] ボタン (または [OK] ボタン) を何度かクリックする。

使用するプリンターの選択

通常使うプリンターを設定する方法と、一時的に別のプリンターに切り替えて印刷する方法を説明します。

[通常使うプリンター] を設定する

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] － [プリンタと FAX] をクリックする。

▼ [プリンタと FAX] ウィンドウが表示される。

2 通常使うプリンターを右クリックし、[通常使うプリンタに設定] をクリックする。

▼ 以降、標準で印刷するプリンターは設定したプリンターになる。

使用するプリンターを一時的に切り替える

1 印刷を行うアプリケーションの[ファイル]メニューから[印刷]を選ぶ。

▼ [印刷] ダイアログボックスが開く。

2 プリンターのドロップダウンリストから、一時的に使用するプリンターを選び、[OK] ボタンをクリックする。

ヒント

★ 削除したプリンターが通常使うプリンターに設定されていたときは、通常使うプリンターを変更するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。

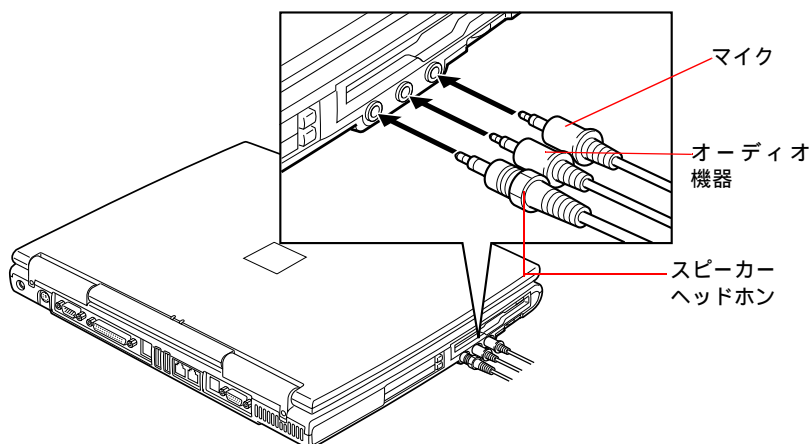
ヒント

★ Windows 2000、Windows NT、Windows 98 の場合は、[スタート] ボタン－ [設定] － [プリンタ] をクリックしてください。

ヘッドホン、マイクを接続する

マイクを使って自分の声など外部の音声を録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。また、ヘッドホンやスピーカーで、音声データを再生したり、ゲームソフトの BGM なども楽しめます。

接続方法

1 パソコン側面の各コネクターに、スピーカーやヘッドホン、マイク、オーディオ機器のジャックを接続する。

重要

◎ ヘッドホンやイヤホンの使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

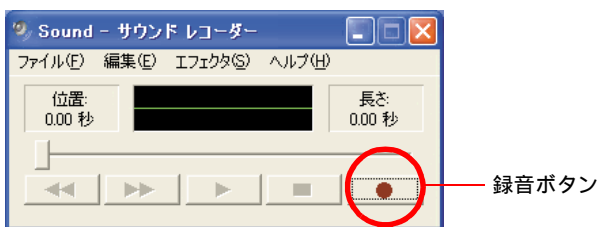
マイクを使って録音する

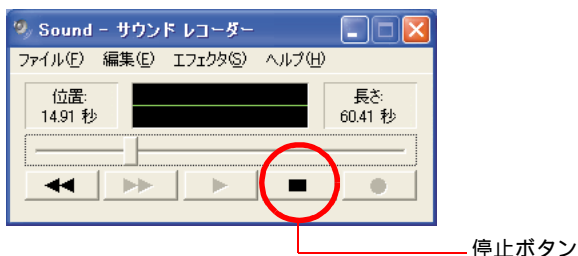
マイクを使って自分の声などを録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。
ここでは Windows の [サウンドレコーダー] を使って録音する方法を説明します。

1 **[スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]([プログラム])ー [アクセサリ] ー [エンターテイメント] ー [サウンドレコーダー] の順にクリックする。**

Windwos NT の場合は、[プログラム] ー [アクセサリ] ー [マルチメディア] ー [サウンドレコーダー] の順にクリックする。

▼ [サウンドレコーダー] が立ち上がる。

2 **録音ボタンをクリックする。**

3 **マイクに向かって話す。**

4 **停止ボタンを押す。**

参照

録音レベルの調整→電子マニュアル『使い勝手を良くする』1 章の「音量を調整する」

ヒント

★ 録音した音声は WAV 形式の音声データとして保存することができます。保存するときは、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] を選択してください。

重要

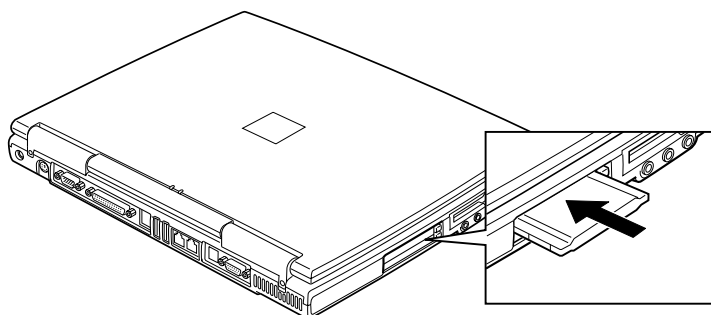
◎ マイクの録音レベルを上げすぎると、音声が歪んだり、ハウリングすることがあります。適度なレベルに調整してお使いください。

PC カード（Windows NT 以外）

このパソコンには、Card Bus ／ JEITA Ver 4.2 ／ PCMCIA2.1 仕様の PC カードを 2 枚接続できます。PC カードを接続することで、SCSI 機器などを使用できます。あらかじめ付属のマニュアルを読み、取り付け可能であることをご確認の上、取り付けてください。

取り付け手順

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **PC カードの表側を上にし、水平にまっすぐ奥までしっかりと PC カードを差し込む。**

重要

◎ PC カードは、Windows NT では使用できません。

◎ TypeIIIのPCカードは厚いため、1 枚しか接続できません。取り付けるときは、下の PC カードスロットに取り付けてください。

◎ 上の PC カードスロットで正常に動作しないときは、下の PC カードスロットで使用してください。

◎ PC カードはパソコンの電源を切って取り付けてください。電源が入った状態で取り付け／取り外しのできる PC カードもありますが、PC カードの組み合わせによっては正常に動作しないこともあります。

◎ PC カードは、カードの表側を上にして取り付けてください。逆に入れると、コネクターが壊れるおそれがあります。

◎ PC カードは、水平にまっすぐ入れてください。斜めに入れると、奥まで差し込めないことがあります。

取り外し手順

Windows XP、2000 の場合

1 **[タスクバー] の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコンをダブルクリックする。**

Windows 2000 の場合、[タスクバー] の [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコンをダブルクリックする。

▼ [ハードウェアの安全な取り外し] 画面が表示される。

2 **[ハードウェア デバイス] から取り外すデバイスを選択し、[停止] ボタンをクリックする。**

3 **[ハードウェア デバイスの停止] 画面が表示される。**

4 **取り外す PC カードであることを確認して [OK] ボタンをクリックする。**

5 **『 ＸＸＸ ～ ' は安全に取り外すことができます。』と、タスクトレーにバルーン表示される。**

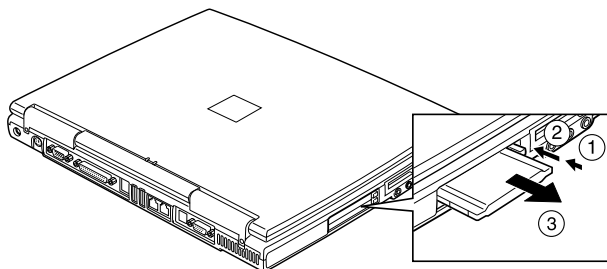
Windows 2000 の場合、[' ＸＸＸ ～ ' は安全に取り外すことができます。] 画面が表示される。

6 **[OK] ボタンをクリックして [ハードウェアの安全な取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。**

Windows 2000 の場合、[OK] ボタンをクリックして [ハードウェアの取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。

ヒント

★ 画面は、Windows XP を例にしています。

7 **取り出す PC カードのイジェクトボタンを指で押す。出てきたイジェクトボタンを押す。PC カードが少し出てくるので取り出す。**

Windows 98 の場合

1 **[コントロールパネル] の [PC カード (PCMCIA)] をダブルクリックしてプロパティーを開く。**

2 **[ソケットの状態] タブで、取り外す PC カードが入っているソケットをクリックして [停止] ボタンをクリックする。**

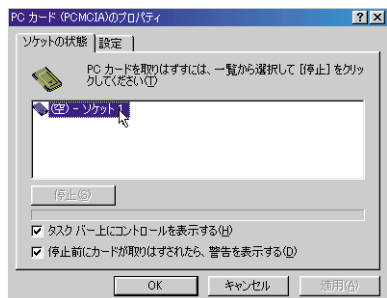
・無線 LAN を内蔵していないパソコンの場合
　上のスロット：「ソケット 1」、下のスロット：「ソケット 2」
・無線 LAN を内蔵しているパソコンの場合
　上のスロット：「ソケット 1」、下のスロット：「ソケット 2」
　無線 LAN：「ソケット 3」(Wave LAN/IEEE)

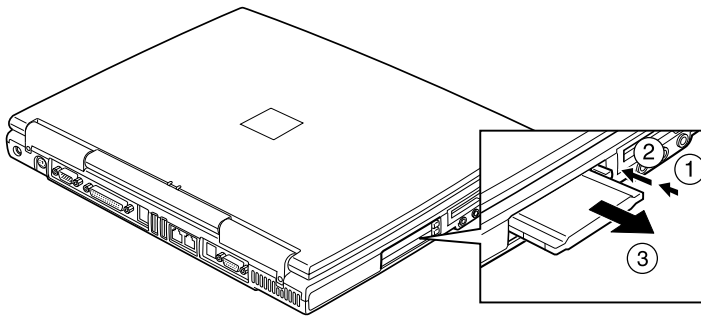
3 **取り出す PC カードのイジェクトボタンを指で押す。**

ヒント

★ PC カードが取り外しにくいときは、いったん PC カードを差し込み、再度イジェクトボタンを押してください。

重要

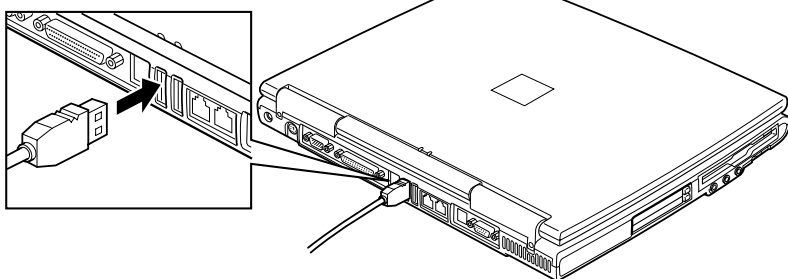
◎ 無線 LAN 内蔵のパソコンでは、無線 LAN に対する操作は行わないでください。

4 **出てきたイジェクトボタンを押す。PC カードが少し出てくるので取り出す。**

ヒント

★ PC カードが取り外しにくいときは、いったん PC カードを差し込み、再度イジェクトボタンを押してください。

USB 機器を接続する

このパソコンにはUSB(Universal Serial Bus)機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、USB機器のマニュアルをご参照ください。

接続方法

1 パソコン背面の USB コネクターに USB マーク（ ）が左側になるようにして USB ケーブルを差し込む。

重 要

◎ Windows NT では使用できません。

ヒント

★ パソコンの電源を入れた状態でも接続できます。

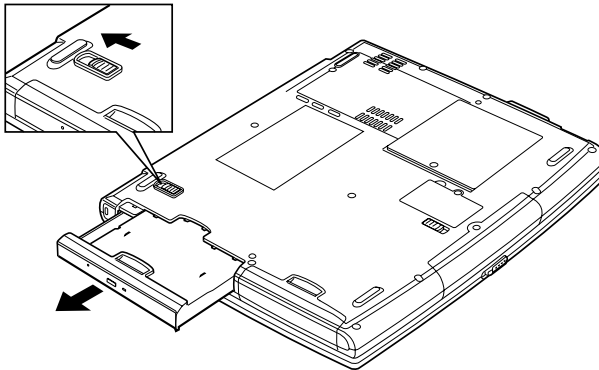
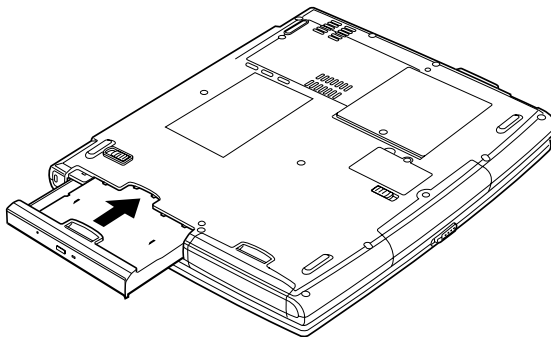
★ USB機器を使用するには、[デバイスマネージャ]で USB コントローラを使用できるように設定する必要があります。標準で使用できるように設定してあります。

ファイルベイ

ファイルベイには、CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブなどを接続できます。ここでは、CD-ROM と DVD-ROM ドライブを例に入れ替える方法を説明します。

接続方法

1 **パソコンの電源を切り、パソコンを裏返す。**

2 **ファイルベイロックを引いて CD-ROM ドライブを取り外す。**

3 **DVD-ROM ドライブを取り付ける。**

ディスプレイを複数接続する

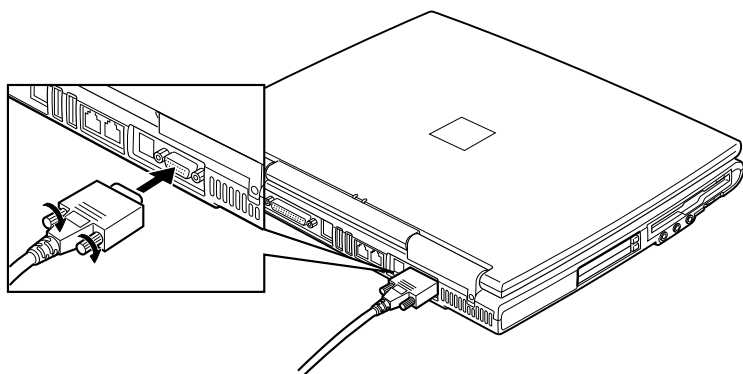
外付けディスプレイを接続すると、パソコンと外付けディスプレイに同じ画面を表示（ 同時表示 ）できます。さらに、Windows XP、Windows 98 の場合は、1 つの画面を 2 台のディスプレイで、広げて表示 (マルチディスプレイ表示) できます。

重要

◎ Windows 2000 と Windows NT では同時表示しか行えません。

接続方法

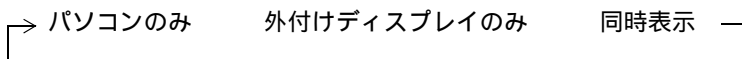
1 **パソコンの電源を切る。**

2 **パソコン背面のディスプレイインタフェースコネクターに外付けディスプレイのケーブルを接続する。**

表示先を切り替える

外付けディスプレイを接続すると、パソコンと外付けディスプレイに同じ画面が表示されます。画面の表示は、パソコンのみ、外付けディスプレイのみ、同時表示、に切り替えられます。

キーで切り替える

[Fn] キーを押しながら、[F7] キーを押します。押すたび、次のように表示先が切り替わります。

→ パソコンのみ → 外付けディスプレイのみ → 同時表示

[画面のプロパティ] で切り替える

ここでは、外付けディスプレイのみに表示させる方法を例に説明します。

■Windows XP、Windows 2000、Windows NT の場合

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] を開き、[画面] アイコンをダブルクリックする。

(Windows 2000、Windows NT では、[スタート] ボタン－ [設定] － [コントロールパネル] － [画面] アイコンをダブルクリックする。)

▼ [画面のプロパティ] が表示される。

2 [設定] タブをクリックし、[詳細設定] ボタンをクリックする。

(Windows 2000 では、[詳細] ボタンをクリックする。)
(Windows NT では、この手順は不要です。)

▼ [ﾌﾟﾗｸﾞ ｱﾝﾄﾞ ﾌﾟﾚｲ ﾓﾆﾀと Intel(R) 82830M Graphics Controller-...] が表示される。

重 要

◎ キーでの画面表示の切り替えは、本体モニターを外部ディスプレイがサポートする解像度と色数の範囲以内に設定後にしてください。

ヒント

★ 表示先の切り替えは、一時的に切り替わるだけで、電源を入れ直すと同時表示に戻ります。立ち上げ直したあとも設定を保持したい場合には、[画面のプロパティ] で切り替えを行ってください。

重 要

◎ Windows XP、Windows 2000 で [3 D スクリーンセーバー] を使用する場合、[設定] － [画面の設定] の [表示モード] は、[自動] 以外の設定では使用しないでください。

◎ Windows Media Player 8を使用して、動画を全画面表示で再生する場合は、[ツール] － [オプション] の [パフォーマンス] タブ上の [詳細] ボタンをクリックし、[オーバレイを使う] のチェックを外して再生してください。その時、[ビデオミキシング レンダラを使う] と [旧ビデオ レンダラ] の項目のチェックを外さないでください。

3 [Intel(R) Graphics Technology] タブをクリックし、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] が表示される。

4 [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面の [デバイス] タブ上の [PC モニタ] アイコンをクリックする。

▼ [PC モニタ] アイコンに赤いチェックがつく。

5 [デバイス] タブ上の [設定] を以下に設定し、[OK] ボタンをクリックする。

[設定] 色： True Color
画面領域：1024 × 768
リフレッシュレート： 60Hz

▼ [デスクトップ変更の確認] 画面が表示される。

重 要

◎ 外部ディスプレイがサポートしない解像度と色数には設定しないでください。

6 外付けディスプレイに表示されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

■Windows 98 の場合

1 外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。

重 要

◎ 画面表示の切り替えは、本体モニターを外部ディスプレイがサポートする解像度と色数の範囲以内に設定後にしてください。

2 [コントロールパネル] の [画面] アイコンをダブルクリックし、[設定] タブをクリックする。

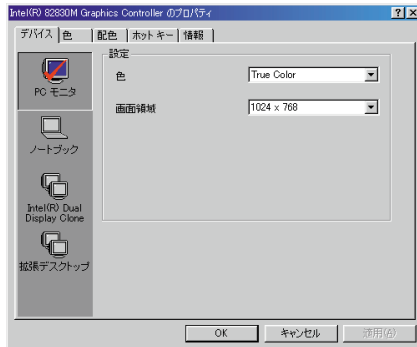
▼ [画面のプロパティ] が表示される。

3 [詳細] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller-0 のプロパティ] が表示される。

4 **[Intel(R) Graphics Technology] タブをクリックし、[グラフィックスのプロパティ] ボタンをクリックする。**

5 **[デバイス] タブ中の、[PC モニタ] アイコンをクリックする。**

▼ [PC モニタ] アイコンに赤いチェック印がつく。

6 **[適用] ボタンをクリックし、外付けモニターに表示されたことを確認し、[OK] ボタンを数回クリックする。**

マルチディスプレイ表示にする

パソコンと外付けディスプレイでデスクトップ領域を広げて表示できるマルチディスプレイ（またはマルチモニター）表示の設定を説明します。
Windows XP/Windows 98 の場合、マルチディスプレイ表示ができます。

■Windows XP の場合

1 **外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。**

2 **[コントロールパネル] の [画面] アイコンをダブルクリックし、[設定] タブをクリックする。**

▼ [画面のプロパティ] が表示される。

3 **[詳細設定] ボタンをクリックし、[Intel(R) Graphics Technology] タブ中の、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。**

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] が表示される。

4 **[Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面の [デバイス] タブ中の [拡張デスクトップ] のアイコンをクリックする。**

▼ [拡張デスクトップ] アイコンに赤いチェックがつく。

5 **[OK] ボタンをクリックする。**

▼ [デスクトップ変更の確認] が表示される。

6 **外付けモニタに画面が広がり、マルチディスプレイに設定されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。**

ヒント

★ マルチディスプレイ表示にしたときは、[Fn] ＋ [F7] キーを押しても、画面表示は切り替わりません。

重要

◎ Windows 2000、Windows NT では、マルチディスプレイの設定はできません。

◎ マルチディスプレイ表示で、3D スクリーンセーバーをプレビューすると、IME ツールバーが点滅表示される場合があります。

◎ マルチディスプレイ表示で、3D スクリーンセーバーから復帰後、デスクトップの壁紙が正常に表示されない場合があります。その場合には、立ち上げ直してください。

◎ アプリケーションによっては、マルチディスプレイ表示のセカンダリディスプレイに移動すると、正常に表示されない場合があります。その場合、プライマリディスプレイで表示させてください。

7 使用する解像度、色を変更する。

■Windows 98 の場合

1 外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。

2 [コントロールパネル] の [画面] アイコンをダブルクリックし、[設定] タブをクリックする。

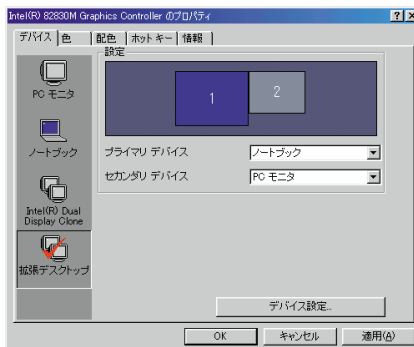
▼ [画面のプロパティ] が表示される。

3 [詳細] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller-0 のプロパティ] が表示される。

4 [Intel(R) Graphics Technology] タブをクリックし、[グラフィックスのプロパティ] ボタンをクリックする。

5 [デバイス] タブ中の、[拡張デスクトップ] アイコンをクリックする。

▼ [拡張デスクトップ] アイコンに赤いチェック印がつく。

6 [適用] ボタンをクリックし、外付けディスプレイに画面が広がり、マルチディスプレイに設定されたことを確認し、[OK] ボタンを数回クリックする。

◎ Windows XP でマルチモニタに設定した場合、[モニタの電源を切る] を設定しても、外付けモニタがモニタ OFF しない場合があります。

◎ 「プラグ アンド プレイモニタを自動的に検出する」にチェックをしたあと、外付けディスプレイを接続し、電源を入れてください。

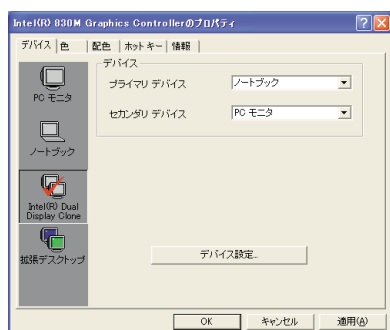
同時表示にする

マルチディスプレイ表示から同時表示にする手順を説明します。

■Windows XP の場合

1 **マルチディスプレイ表示の設定と同じ手順で、[画面プロパティ] 上で [設定] タブを開く。**

2 **[詳細設定] ボタンをクリックし、[Intel(R) Graphics Technology] タブ中の、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。**

3 **[Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] タブ上の [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする。**

▼ [Intel(R) Dual Display Clone] に赤いチェックがつく。

4 **[デバイス] ボタンをクリックする。**

▼ [デバイス設定] 画面が表示される。

5 **[ノートブック（プライマリ）] の [設定]、[モニタ（セカンダリ）] の [設定] をそれぞれ以下に設定し [OK] ボタンをクリックする。**

ノートブック（プライマリ）　色：High Color
画面領域：1024 × 768
モニタ（セカンダリ）　リフレッシュレート：60HZ

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面に戻る。

6 **[OK] ボタンをクリックする。**

▼ [デスクトップの変更の確認] が表示される。

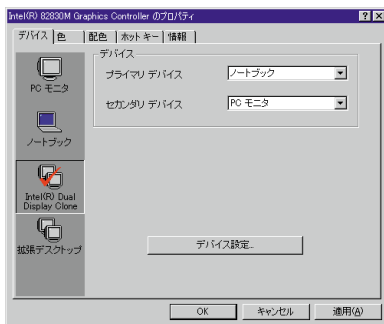
7 同時表示に設定されたことを確認して、[OK] ボタンをクリックする。

■Windows 98 の場合

1 マルチディスプレイ表示の設定と同じ手順で、[画面プロパティ] 上で [設定] タブを開く。

2 [詳細] ボタンをクリックし、[Intel(R) Graphics Technology] タブ中の [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] が表示される。

3 [デバイス] タブ上の [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする。

▼ [Intel(R) Dual Display Clone] に赤いチェックがつく。

4 [デバイス設定] ボタンをクリックする。

▼ [デバイス設定] 画面が表示される。

5 [ノートブック（プライマリ)] の [設定]、[モニタ（セカンダリ)] の [設定] をそれぞれ次のように設定し、[OK] ボタンをクリックする。

ノートブック（プライマリ）	色：High Color 画面領域：1024 × 768
モニタ（セカンダリ）	リフレッシュレート：60Hz

▼ [Intel(R) 82830 Graphics Controller のプロパティ] 画面に戻る。

6 [OK] ボタンをクリックする。

▼ [デスクトップの変更の確認] が表示される。

重 要

◎ 同時表示設定時は、ノートモニタ、外付けモニタともに、解像度を 1024 × 768、画面の色を High Color に設定してください。

重 要

◎ 外部ディスプレイがサポートしない解像度と色数に設定はしないでください。

7 同時表示に設定されたことを確認して、[OK] ボタンをクリックする。

解像度

マルチディスプレイ表示で設定するディスプレイ１とディスプレイ２の解像度は、次の組み合わせに従って設定してください。また各ディスプレイの色数は同じ値に設定してください。

ディスプレイ 1 の解像度	ディスプレイ 2 の解像度	
640 × 480　*1	640 × 480	＊1
	800 × 600	
	1024 × 768	
	1280 × 1024	＊4
800 × 600	640 × 480	＊1
	800 × 600	
	1024 × 768	＊2
	1280 × 1024	＊2、4
1024 × 768	640 × 480	＊1
	800 × 600	＊2
	1024 × 768	＊2
	1280 × 1024	＊4
1280 × 1024　*4	640 × 480	＊1
	800 × 600	
	1024 × 768	＊3

＊1:Windows XP では、解像度 640 × 480 は表示できません。
＊2:Windows XP では、16 ビット、24 ビットのみ設定可能です。
＊3:Windows XP では、16 ビットのみ設定可能です。
＊4:外付けディスプレイのみ設定可能です。

その他の周辺機器を接続する

Windows NT 以外の OS では、通常、プラグアンドプレイ機能に対応している周辺機器を接続したとき、自動的に Windows が環境を設定します。プラグアンドプレイ機能に対応していない周辺機器を接続する場合は、[ハードウェアの追加ウィザード] を使って手動で環境を設定します。
[ハードウェアの追加ウィザード] を使う前に、周辺機器に付属のマニュアルをよくお読みください。付属のマニュアルに操作手順が記載されている場合は、その手順を行ってください。

ヒント
★ メモリーの増設は、環境設定は不要です。
★ 周辺機器の取り付け･取り外しについては、この章や周辺機器に付属のマニュアルをご参照ください。

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **電源プラグをコンセントから抜き、周辺機器を接続する。**

3 **必要に応じて、周辺機器の電源を入れる。**

4 **パソコンの電源を入れる。**

ヒント
★ USB 機器のように、パソコンの電源が入ったままでも接続できる周辺機器もあります。

5 **[コントロール パネル] の [ハードウェアの追加] アイコンをダブルクリックする。**

▼ [ハードウェアの追加ウィザード] が表示される。

6 **画面の指示に従って、[次へ] ボタンをクリックする。**

▼ 新しい周辺機器の検出が始まる。

7 **しばらくすると、「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました」と表示される。**

ヒント
★ メッセージが表示されず、増設した周辺機器が見つからないときは、[次へ] ボタンをクリックし、周辺機器に付属のマニュアルを参照するなどして手動で設定してください。

8 **[完了] ボタンをクリックする。**

▼ 検出された周辺機器のドライバーがインストールされる。

無線 LAN の取り付けかた

通常、無線 LAN を取り付ける必要はありませんので、お客様自身では行わないでください。作業が必要なときは、お買い求め先にお問い合わせください。

ヒント

★ 購入時の選択によります。

1 **バッテリーを外す。**

2 **電源スイッチカバー（ミドルカバー）についているネジ２本を外し、電源スイッチカバー（ミドルカバー）を外す。**

3 **キーボードを外す。**

4 **無線 LAN カバーについているネジ２本を外し、無線 LAN カバーを外す。**

5 **無線 LAN ボードをコネクターに挿入する。**

6 **アンテナをネジで固定する。（アンテナは左右２箇所分あります。）**

7 **無線 LAN カバーを取り付けネジ２本で固定する。**

8 **キーボードを取り付ける。**

9 **電源スイッチカバー（ミドルカバー）を取り付け、ネジ２本で固定する。**

10 **バッテリーを取り付ける。**

3 章

日常のお手入れ

この章では、パソコンの各部分のお手入れについて説明します。

お手入れ

ここではパソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。パソコンのお手入れをするときは、パソコンの電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行ってください。またバッテリーパックを取り付けているときは、バッテリーパックも取り外してください。

パソコン

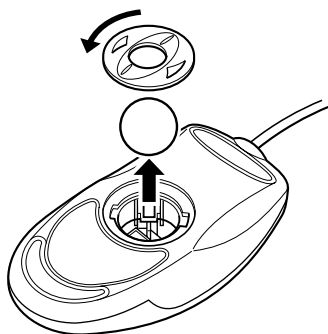
パソコンが汚れたときは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水か中性洗剤で湿らせた布を固く絞って拭くか、オフィスクリーナーなど、市販の専用クリーナーをお使いください。

マウス

1～3カ月に1回はマウスをクリーニングすることをお勧めします。また、ボールにゴミが付着するなどして正しく動かないときは、クリーニングをしてください。

クリーニング手順

1 マウス底面の中央にあるフタを図のように反時計回りに回す。

フタを外して、中のボールを取り出す。

2 ボールを中性洗剤を薄めた水で洗う。

重要

◎ シンナーやベンジン、化学雑巾は使わないでください。パソコンの表面が変質するおそれがあります。

重要

◎ 専用クリーナーは、このパソコンのお買い求め先、またはパソコンショップでご購入ください。

ヒント

★ ボールは中性洗剤を薄めた水で洗ってください。漂白剤、シンナー、ワックス、クリーム、油剤などは使用しないでください。
また、化学雑巾やワックスが付いた布でボールを拭かないでください。ワックスなどの皮膜が付着するとボールがスリップする原因になります。

3 **乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾燥させる。**

4 **乾いた布でマウスの内部や、内部のローラーのゴミやホコリを取り除く。**

5 **マウスにボールを入れ、取り外したときと逆の手順でフタを取り付ける。**

フロッピーディスクドライブ

FDD は長期間使用しているとヘッドが汚れ、データを読み書きする際にエラーが発生しやすくなります。1 ～ 3 カ月に 1 回は市販のクリーニングキットでクリーニングをすることをお勧めします。クリーニングの方法については、クリーニングキット付属のマニュアルをご参照ください。付属のマニュアルがない場合は、次の手順を行ってください。

ヒント
★ クリーニングキットは乾式･湿式両方とも使用できます。
★ クリーニングキットは、このパソコンのお買い求め先、またはパソコンショップでご購入ください。

クリーニング手順

1 **[スタート] ─ [すべてのプログラム] ─ [アクセサリ] ─ [コマンドプロンプト] をクリックする。**

- Windows 2000 の場合は、[スタート] ─ [プログラム] ─ [アクセサリ] ─ [コマンドプロンプト] をクリックする。
- Windows NT の場合は、[スタート] ─ [プログラム] ─ [コマンドプロンプト] をクリックする。
- Windows 98 の場合は、[スタート] ─ [プログラム] ─ [MS-DOS プロンプト] をクリックする。

▼ [コマンドプロンプト]（[MS-DOS プロンプト]）ウィンドウが表示される。

2 **クリーニングディスクを FDD に挿入する。**

3 **クリーニングするドライブに対して、dir と半角で入力し、[Enter] キーを押す。**

▼ エラーが表示される。

ヒント
★ クリーニングするドライブのドライブ文字が [A] の場合、入力は「dir A:」になります。

4 **表示されるメッセージに従って、[R] キーを押す。4、5 回繰り返す。**

（Windows XP と Windows 2000、Windows NT では手順 3 に戻る。）

5 exit と半角で入力し、[Enter] キーを押す。ウィンドウが消える。

(Windows 98 の場合は、表示されるメッセージに従って [A] キーを押し、終了する。)

CD-ROM ドライブ

CD-ROM のドライブでは、ドライブ内部のピックアップレンズにほこりなどが付くと、ディスクのデータが読み取りにくくなります。市販のピックアップクリーニングディスクを使用し、月に 1 度はピックアップレンズのクリーニングをすることをお勧めします。また、ディスクの読み込みエラーが発生したときなどにも、ピックアップレンズのクリーニングをしてください。クリーニングの方法については、ピックアップクリーニングディスク付属のマニュアルをご参照ください。

ヒント

★ ピックアップクリーニングディスクは、パソコンショップでご購入ください。

CD-R/RW ドライブ

データ読み込み時にエラーが頻繁に発生する場合は、市販のクリーニングディスクを用い、クリーニングしてください。クリーニングの方法は、クリーニングディスク付属のマニュアルをご参照ください。

重要

◎ クリーニング液を使用する湿式レンズクリーナーは、使用しないでください。ドライブ内部のレンズを傷つける原因になります。

ヒント

★ クリーニングディスクは、パソコンショップでご購入ください。

DVD-ROM ドライブ

DVD-ROM ドライブは防塵構造になっていますので、クリーニングの必要はありません。

重要

◎ DVD-ROM ドライブに、市販のクリーニング CD (ハケ状のものがついた CD) は使用しないでください。DVD レンズを傷つける原因になります。

DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブ

データ読み込み時にエラーが頻繁に発生する場合は、市販のクリーニングディスクを用い、クリーニングしてください。クリーニングの方法は、クリーニングディスク付属のマニュアルをご参照ください。

4 章

技術情報

この章では、パソコンのシステム構成および仕様について説明します。

ドライブとディスクの仕様

CD-ROM ドライブの仕様

項目	仕様
読み取り速度 ＊	最大 24 倍速
読み取り方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式) ／電動イジェクト
周波数特性	20 ～ 20kHz(0.5dB ～－ 3.0dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	LED
バッファメモリー	128KB
転送レート	最大 3600KB/s
質量	約 280g

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み取りが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応している CD-ROM ディスク

次の CD-ROM を使用できます。

・ CD-DA(オーディオ CD)
・ CD-ROM(mode1、mode2)
・ CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
・ PhotoCD(シングル / マルチセッション)
・ CD-EXTRA(CD-Plus)
・ VIDEO CD
・ CD-R/RW

重 要

◎ **使用する CD-ROM によって、専用ソフトが必要です。**

CD-R/RW ドライブの仕様

項目	仕様
読み取り速度　＊	CD-ROM/R：最大 24 倍速、CD-RW：最大 20 倍速
書き込み速度	CD-R：最大 24 倍速、CD-RW：最大 4 倍速、 High Speed CD-RW：最大 10 倍速
読み取り方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
バッファアンダーラン防止機能	搭載
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式) ／ 電動イジェクト
周波数特性	20 ～ 20kHz(± 3.0dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	LED
バッファメモリー	2MB
転送レート (Read)	CD-ROM/R：最大 3600KB/s、CD-RW：最大 3000KB/s
転送レート (Wirte)	CD-R：最大 3600KB/s、CD-RW：最大 600KB/s High Speed CD-RW：最大 1500KB/s
質量	約 300g
推奨ディスク	CD-R：太陽誘電 (株) 製、三井化学 (株) 製、 三菱化学 (株) 製、(株) リコー製、 日立マクセル (株) 製 CD-RW：三菱化学 (株) 製、(株) リコー製 High Speed CD-RW：三菱化学（株）製、（株）リコー製

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み取りが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

- CD-R
- CD-RW
- CD-DA(オーディオ CD)
- CD-ROM(mode1、mode2)
- CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
- PhotoCD(シングル / マルチセッション)
- CD-EXTRA(CD-Plus)
- VIDEO CD

重要

◎ 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。

◎ CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。

◎ 推奨ディスク以外のディスクを使用すると書き込みエラーが発生することがあります。

DVD-ROM ドライブの仕様

項目	仕様
読み取り速度 ＊	DVD-ROM ： 最大 8 倍速 CD-ROM ： 最大 24 倍速
読み取り方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式) ／ 電動イジェクト
周波数特性	20 ～ 20kHz(± 3dB)
出力チャンネル	2ch
バッファメモリー	256KB
転送レート	DVD-ROM ： 最大 11.08MB/s CD-ROM ： 最大 3600KB/s
質量	約 200g

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み取りが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

・ DVD-5
・ DVD-9
・ DVD-10
・ DVD-R
・ DVD-RAM(Type2)
・ CD-DA(オーディオ CD)
・ CD-ROM(mode1、mode2)
・ CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
・ PhotoCD(シングル / マルチセッション)
・ CD EXTRA(CD-Plus)
・ VIDEO CD
・ CD-R/RW

重 要

◎ DVD-ROM ディスクは、ISO-9660 フォーマットのもの以外は使用できません。
◎ 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。
◎ CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。
◎ 特殊なフォーマットの DVD-ROM は正しく読み込めないことがあります。

DVD-ROM&CD-R/RWマルチドライブの仕様

項目	仕様
読み取り速度 ＊	DVD-ROM：最大 8 倍速、CD-ROM：最大 24 倍速
書き込み速度	CD-R： 最大 16 倍速、CD-RW：最大 4 倍速 High Speed CD-RW：最大 10 倍速
読み取り方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
バッファアンダーラン防止機能	搭載
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式) ／ 電動イジェクト
周波数特性	20 ～ 20kHz(± 3dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	LED
バッファメモリー	2MB
転送レート（Read）	DVD-ROM：最大 10800KB/s、CD-ROM：最大 3600KB/s
転送レート（Write）	CD-R：最大 2400KB/s、CD-RW：最大 600KB/s High Speed CD-RW：最大 1500KB/s
質量	約 250g
推奨ディスク	CD-R ： 太陽誘電 (株) 製、三井化学 (株) 製、 三菱化学 (株) 製、(株) リコー製、 日立マクセル (株) 製、 CD-RW: 三菱化学 (株) 製、(株) リコー製 High Speed CD-RW：三菱化学（株）製、（株）リコー製

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み取りが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

- CD-R
- CD-RW
- CD-DA(オーディオ CD)
- CD-ROM(mode1、mode2)
- CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
- PhotoCD(シングル / マルチセッション)
- CD EXTRA(CD-Plus)
- VIDEO CD
- DVD-ROM
- DVD-R（3.95GB、4.7GB)
- DVD-RAM（2.6GB、4.7GB)
- DVD-VIDEO
- DVD-RW（Ver 1.1)

◎ 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。

◎ CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。

◎ 推奨ディスク以外のディスクを使用すると書き込みエラーが発生することがあります。

フロッピーディスクの仕様

■2HD

容 量	1.44MB	1.25MB
トラック数／面	80	77
セクター長（バイト）	512	1024
セクター数／アロケーションユニット	1	1
リザーブセクター数	1	1
FAT 数	2	2
ルートディレクトリー登録総数	224	192
総セクター数	2880	1232
メディア･ディスクリプタバイト	F0	FE
セクター数／ FAT	9	2
セクター数／トラック	18	8
ヘッド数	2	2
隠しセクター	0	0
動作	R/W/F/B ＊	R/W ＊

＊ 意味は次の通りです。R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

■2DD

容 量	720KB
トラック数／面	80
セクター長（バイト）	512
セクター数／アロケーションユニット	2
リザーブセクター数	1
FAT 数	2
ルートディレクトリー登録総数	112
総セクター数	1440
メディア･ディスクリプタバイト	F9
セクター数／ FAT	3
セクター数／トラック	9
ヘッド数	2
隠しセクター	0
動作	R/W/F/B ＊

＊ 意味は次の通りです。R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

重要

◎ **特殊なフォーマットの FD は使用できないことがあります。**

◎ **弊社製以外のパソコンでフォーマットした FD は、読み書きができないことがあります。**

◎ **Windows XP では、2DD の FD はフォーマットできません。**

ドライブの使用について

CD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブ、フロッピーディスクドライブ（以下、まとめてドライブ）と、それらのディスクの使用について説明します。

ドライブの取り扱い

- ドライブ使用中に振動を与えないでください。データを正しく読めないことがあります。
- パソコンの電源を切るときは、必ずディスクを取り出してからにしてください。ディスクを内蔵ドライブに入れたまま誤ってパソコンの電源を切ったときは、再び電源を入れて取り出してください。
- ディスク強制イジェクトスイッチを使うときは、内蔵ドライブの内部に異物が入らないようにしてください。
- ディスクが偏重心している場合（ラベルをはっている場合など）、ドライブの振動が通常より大きくなることや、読み取りスピードが遅くなることがあります。
- パソコンの電源を切ったり、ソフトウェアリセット（[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押す）を行うときは、ドライブのアクセスランプが消えてから行ってください。
- ドライブのアクセスランプの点灯、点滅中に電源を切ったり、ソフトウェアリセットを行うと、ドライブが壊れることがあります。
- ドライブは、5 ～ 35 ℃の温度環境で使用できますが、長くお使いいただくためには 30 ℃以下の場所でお使いください。
- ドライブの使用中に強い衝撃を与えないでください。
- ディスクを入れたり取り出したりするとき以外に、ドライブのトレーを開けないでください。
- トレーの中に異物を入れないでください。ドライブが破損し、故障の原因になります。
- CD-R/RW ドライブ内蔵モデルの場合、CD-R/RW を書き込み中に傷や汚れを検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- フロッピーディスクドライブなど、データの転送速度が遅いディスクドライブから CD-R や CD-RW に書き込みを行うときは、テスト書き込みを行ってください。
- CD-R/RW ドライブ内蔵モデルの場合、CD-R や CD-RW にデータを書き込む時は、ほかのアプリケーションを終了してください。書き込み中も、ほかのアプリケーションを立ち上げないでください。データが壊れることがあります。
- WAVE ファイル、AVI ファイルなどの音声を再生中に、FD に書き込み、読み込みを行うと音声が繰り返して再生されることがあります。
- MS-DOS プロンプトやコマンドプロンプトで、1.25MB の FD は使用できません。Windows でお使いください。
- FDD の場合、未フォーマットなどのディスクにアクセスすると、ディスクを認識するまでに時間がかかります。このため、フォーマットに時間がかかることがあります。動作は正常ですのでしばらくお待ちください。

CD-ROM/CD-R/CD-RW/DVD-ROM の取り扱い

・ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
・ディスクからゴミや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
・ディスクは高温な場所に保管しないでください。
・ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
・ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
・ディスクにラベルなどをはると、ドライブ内での回転が不安定になり故障の原因になります。
・お子さまがディスクを傷つけたりしないよう、ディスクはお子さまの手の届かないところに保管してください。
・CD-RW の書き換え可能回数は 1000 回です。1000 回を超えて使用した場合は、書き込みエラーが発生することがあります。

フロッピーディスクの取り扱い

・FD のシャッター部は開けないでください。内部の磁性面が汚れると使えなくなります。
・磁石やスピーカーなどの強い磁界を発生するものに FD を近づけると、記録したデータが消去するおそれがあります。
・FD は次のような場所に保管してください。
保管温度：4 ℃～ 53 ℃
保管湿度：10 ～ 90%Rh(結露しないこと)
最大湿球温度：25 ℃
・FD ラベルは正しい位置にはってください。ラベルを替えるときは、重ねばりをしないでください。
・FD は消耗品です。同じ FD を長期間使用しないでください。
・大切なデータは必ずバックアップを取ってください。また、バックアップ FD はバックアップ以外の目的に使わないでください。

その他の周辺機器の仕様

メモリーボードの仕様

項目	仕様	
形名	MK7130	MK7257
容量	128MB	256MB
パリティ	なし	
DRAM タイプ	SDRAM、PC133	
DIMM タイプ	SO-DIMM 144 ピン	
電源電圧	3.3V	

バッテリーパックの仕様

項目	仕様	
形名	PC-AB6010	PC-AB6000AA
容量	1800mAh	3600mAh
出力電圧	14.8V	
充放電回数	約 300 回	
外形寸法	94mm(W) × 137mm(D) × 27mm(H)	
質量	約 240g	約 400g

バッテリーの使用について

・お買い求め直後、または長時間バッテリーを使わなかった場合、満充電にしても使用可能時間が短いことがあります。放電 (使用) と充電を数回繰り返すと元の使用可能時間に戻ります。
・バッテリーパックには寿命があります。使用可能時間が短くなってきたら、新品と交換してください。

ヒント

★ 周辺機器の使用環境はパソコンと同じです。

マウスの仕様

項目	仕様	
形名	KM1300	KM5430
外形寸法	62㎜(W) × 120.8㎜(D) × 37.5㎜(H)	
質量	約 120g	
ケーブル長	約 1000㎜	
インタフェース	PS/2 準拠	USB 準拠

オプション一覧表

パソコンに増設または接続できるオプションを次に示します。オプション機器は随時、生産中止、新製品発表などがありますのでご購入の際は、営業などにお問い合わせください。

分類	品名	形名	仕様	
ディスプレイ	ディスプレイ装置	DC1556	15 型カラーマルチスキャン	
		DC1574	17 型カラーマルチスキャン	
		DC1590	19 型カラーマルチスキャン	
入力装置	テンキーボード	KB3420	PS/2、17 キー マウス I/F 付き	
	マウス	KM1300	PS/2、2 ボタン ホイール付き	
		KM5430	USB、2 ボタン ホイール付き	
	Link Stick	KX1100	ハンドイメージスキャナ USB I/F	
メモリー	メモリーボード	MK7130	128MB、SDRAM SO-DIMM、 PC133	
		MK7257	256MB、SDRAM SO-DIMM、 PC133	
アクセサリー	AC アダプター	AP6300		
	スマートカード	AZ2100		＊1
	スマートカードアダプター	AR1210		＊1
	バッテリーパック(標準)	AB6010	リチウムイオン	
	バッテリーパック(大容量)	AB6000AA	リチウムイオン	
	ダミーバッテリー	AE3200A		
	ウェイトセーバー	AJ1200		
ファイル装置(外付)	増設光磁気ディスク装置	FM1643	640MB、SCSI-2 I/F (PC カードスロット 1 専用)	

分類	品名	形名	仕様	
ファイル装置 (内蔵)	CD-ROM ユニット	UC6200	読み取り　最大 24 倍速	
	DVD-ROM ユニット	UV6101	読み取り DVD-ROM：最大 8 倍速 CD-ROM ：最大 24 倍速	＊2
	CD-R/RW ユニット	UC6220	書き込み CD-R ：最大 24 倍速 CD-RW ：最大 4 倍速 High Speed CD-RW： 最大 10 倍速 読み取り CD-ROM/R：最大 24 倍速 CD-RW ：最大 20 倍速	
	DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブ	UC6230	書き込み CD-R ：最大 16 倍速 CD-RW ：最大 4 倍速 High Speed CD-RW： 最大 10 倍速 読み取り CD-ROM ：最大 24 倍速 DVD-ROM：最大 8 倍速	
PC カード	SCSI カード	CS3200	SCSI-3、SCSI ケーブル付き	＊3
	無線 LAN カード	CN3400		＊3

この一覧表以外のオプションは、使用しないでください。正しく動かないことがあります。

＊1：PC カードスロットに取り付けて、使用します。使用するには、専用のアプリケーションが必要です。Windows NT では使用できません。
＊2：DVD-Video を再生するには別途再生ソフトが必要です。
＊3：PC カードは、Windows NT では使用できません。

分類	品名	形名	仕様	
プリンター	シリアルドット プリンター	PD2080	75 字 / 秒、136 桁	＊ 4
		PD2130	125 字 / 秒、136 桁	＊ 4
		PD2161	160 字 / 秒、136 桁	＊ 4
	水平インサーター プリンター	PD4080S	75 字 / 秒、136 桁	＊ 4
		PD4081	80 字 / 秒、136 桁	＊ 4
		PD4130	130 字 / 秒、136 桁	＊ 4
		PD3161	160 字 / 秒、136 桁	＊ 4
	ラインプリンター	PN5200	280 行 / 分、136 桁	
		PN5400	500 行 / 分、136 桁	
		PN5600	800 行 / 分、136 桁	＊ 5
		PN5600P	800 行 / 分　パワースカッターモデル、136 桁	＊ 5
	モノクロページ プリンター	PL2170	16 枚 / 分、A4 モデル	＊ 4
		PL2450	20 枚 / 分、A3 モデル	＊ 4
		PL2560	22 枚 / 分、A3 モデル	＊ 4
		PL2700	32 枚 / 分、A3 モデル	＊ 4
		PL2800	40 枚 / 分、A3 モデル	＊ 4
		PL2810	40 枚 / 分、A3 モデル	＊ 4
	カラーページ プリンター	PK3000	カラー 6 枚 / 分、 モノクロ 24 枚 / 分、A3 モデル	
		PK3000N		
		PK3500N		
		PK2000	カラー 6 枚 / 分、 モノクロ 24 枚 / 分、A4 モデル	
		PK2000N		
		PK2500N		
		PK4800	カラー 12.5 枚 / 分、 モノクロ 50 枚 / 分、A3 モデル	＊ 4
	連続紙ページ プリンター	PL9120	1650 行 / 分	

分類	品名	形名	仕様	
シリアルドット/ラインプリンターオプション	イージーセットフィーダー	AS40801S	PD4080S 用	＊6
	トラクターユニット	PG40801S	PD4080S 用	
		PG4081	PD4081 用	＊7
		PG4130	PD4130 用	＊8
	自動給紙機構	AS40802S	PD4080S 用	
		AS4081	PD4081 用	＊7
		AS4130	PD4130 用	＊8
		AS3160	PD3160 用	
		AS1061	PD2080 用	
		AS3130	PD2130 用	
		AS2161	PA2161 用	
	LAN アダプター	PB20101	PD2080/2130/2161/4080S/4081/4130/3161 PN5200/5400/5600/5600P	
		PB20111	PD2080/2130/2161/4080S/4081/4130/3161 PN5200/5400/5600/5600P 用	
	防振テーブル	AD10100	PD2080/2130/2161/4080S/4081/4130/3161 用	
ページプリンターオプション	ペーパーフィーダー	PF2170	PL2170 用	＊9
		PF2450	PL2450 用	＊10
		PF25501	PL2560 用	＊11
		PF25502	PL2560 用	＊11
	ペーパーデッキ	PF4300	PL2700 用	＊12、＊13
		PF27002		＊12、＊13
	1 トレイモジュール	PF28001	PL2800 用	
		PF28101	PL2810 用	
	3 トレイモジュール	PF28003	PL2800 用	
		PF28103	PL2810 用	
	大容量キャビネット	PF28005	PL2800 用	
		PF28105	PL2810 用	
	大容量給紙トレイ	PF48001	PK4800 用	
	オプションコントローラ	PB2700	PL2700 用	＊13
	ステイプルスタッカ	PH27001	PL2700 用	＊12、＊13、＊14
	7 ビンソータ	PH27002	PL2700 用	＊12、＊13
	パワースタッカー	PH91201	PL9120 用	
	用紙カッター	PH91202	PL9120 用	
	LAN アダプタ	PB20101	PL9120 用	
	ステープルフィニッシャー	PH28001	PL2800/PL2810PSA 用	
	ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ / ｿｰﾀｰ	PH48001	PK4800 用	
	ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ/ﾌｨﾆｯｼｬｰ	PH48002	PK4800 用	

分類	品名	形名	仕様	
ページプリンターオプション	ペディスタル	AD2600	PL2700 用	＊ 12
		AD27002	PH27002 用 7 ビンソータ台	＊ 15
	両面印刷機構	PW2450	PL2450 用	
		PW2550	PL2560 用	
		PW4300	PL2700 用	
		PW2800	PL2800 用 /PL2810PSA 用	
	拡張メモリー	PM27001	PL2450/2560/2700 用 32MB	＊ 16
		PM27002	PL2450/2560/2700 用 64MB	＊ 16
		PM28001	PL2800 用 16MB	
		PM28002	PL2800 用 32MB	
		PM2810	PL2810 用 64MB	
		PM48001	PK4800 用	
		PM48002	PK4800 用	
	2 次キャッシュメモリー	PM28005	PL2800 用 2 次キャッシュメモリー 512KB	
	LAN ボード	PB20002A	PL2450/2560/2700 用	＊ 17
		PB20011A	PL2450/2560/2700 用	＊ 17
		PB2170	PL2170 用	
		PB40002	PK3000/2000、PL9120 用	
	KEIS フォント	PB20701A	PL2700 用	
		PB20702	PL2450、2560 用	
	内蔵ハードディスク	PA2560	PL2450/PL2560 用	＊ 17、＊ 18
		PA2700	PL2700 用	＊ 17、＊ 18
		PA28001	PL2800 用	
		PA28101	PL2810 用	
	PostScript ソフトウェアキット	PA28002	PL2800 用	
		PA28102	PL2810 用（2 書体）	
		PA28103	PL2810 用（3 書体）	
		PA48002	PK4800 用	
	プリンタキット	PG48001	PK4800 用	
		PG48002	PK4800 用	
		PG48003	PK4800 用	
	地震対策キット	PG48005	PK4800 用	

分類	品名	形名	仕様
カラーページプリンターオプション	ペーパーフィーダー	PF4110	PK3000/3000N/3500N 用
		PF4120	PK2000/2000N/2500N 用
	両面印刷機構	PW4110	PK3000/3000N/3500N 用
		PW4120	PK2000/2000N/2500N 用
	拡張メモリー	PM41101	PK3000/3000N/3500N/2000/2000N/2500N 用　64MB
		PM42101	PK3500N/2500N 用　128MB
	LAN アダプタ	PB40002	PK3000/2000/PL9120 用
	増設ハードディスク	PA42101	PK3500N/2500N 用
	プリンター台	AD4110	PK3000/3000N/3500N 用
	標準用紙カセット	PA41101	PK3000/3000N/3500N 用
		PA41201	PK2000/2000N/2500N 用
	LFU カセット	PA41103	PK3000/3000N/3500N 用
		PA41203	PK2000/2000N/2500N 用
	A4 カセット	PA41101	PK3000/3000N/3500N 用

分類	品名	形名	仕様	
LAN 機器	無線 LAN アクセスポイント	CN3300	無線 LAN アクセスポイント	
	TP トランシーバー	LAN-LNTTF		
	リピーター	HN-1312-12		
	マルチリピーター(HUB)	HN-1332-08B		
		HN-1332-16		
		HN-1332-16A		
		HN-1352-08		
		LAN-LNRP8A		
		LAN-LNRP16A		
		LAN-LNFRP8A		
	SNMP 付マルチポートリピーター	LAN-LNRP12		
	HUB 管理ユニット	HN-F1332-1		
	管理機能内蔵 HUB	HN-1342-08		
		HN-1342-16		
		HN-1342-16A		
		HN-1362-08		
	スイッチング HUB	PC-BH7500		
	HS30	HN-1801-08		
	HS30	HN-1801-16		
	HS50	HN-1805-10		
	HS100	HN-1811-10		
	HS100	HN-1811-10A		
	HS100	HN-1811-10F		
	HS150	HN-1815-10		＊19
	HS150	HN-1815-10A		＊19
	HS150	HN-1815-20		＊19
	HS150	HN-1815-20A		＊19
	HS150	HN-1815-31		
	HS150	HN-1815-32		
	HS200	HN-1821-10A		
	HS200	HN-1822-10A		
	HS200	HN-F1821-12		
	HS200	HN-F1821-31A		
	HS200	HN-F1821-32E		
		LAN-LNF2SW6A		＊19
		LAN-LNFR2SWA		
		LAN-LNFR8SWA		＊19

分類	品名	形名	仕様
ケーブル	プリンターケーブル	LP1101	PD2080/2130/2161/4080S/ 4081/4130/3161 PL2160/2170/2450/2560/2700/ 2800/2810PSA/PK4800
		HT-4996-66E	PN5200/5400/5600/5600P 用
		HT-4996-66H	PL9120 用
	モデムケーブル	LM1111	4.0m
		LM1100	2.0m
	RS-232-C 機器接続ケーブル	LR1111	4.0m
		LR1100	2.0m
	SCSI ケーブル	LE3080	
	マルチリピーター接続ケーブル	HN-F1332-16	HUB16 を接続
	TP ケーブル（3m）	LNW03Q5	
	（6m）	LNW06Q5	
	（15m）	LNW15Q5	
	（30m）	LNW30Q5	
	（100m）	LNW100Q5	

＊4 ：プリンターケーブルや拡張メモリーなどとのセット品もあります。
＊5 ：通常の 2 極電源とは異なるため、別途、電源工事が必要です。
＊6 ：イージーセットフィーダー接続時は、自動給紙機構の前方接続または連続用紙の前方給紙はできません。
＊7 ：トラクターユニットと、自動給紙機構をプリンタの後方に同時接続することはできません。
＊8 ：トラクターユニットと、自動給紙機構をプリンタの前方に同時接続することはできません。
＊9 ：1 段のみ増設可能です。
＊10: 3 段まで増設可能です。
＊11: 2 段まで増設可能です。ただし、５００枚ペーパーフィーダーは最下段のみで使用可能です。
＊12: いずれかひとつの選択となります。
＊13: オプションコントローラは増設給紙排紙機構使用時の必須オプションです。
＊14: 2000 枚ペーパーデッキ、500 枚× 2 段ペーパーデッキ、ペディスタル（プリンタ台）いずれかが必要です。
＊15: 7 ビンソータとペーパーデッキを接続時は 7 ビンソータ台が必要となります。
＊16: 拡張メモリーは 1 つのみ接続可能です。
＊17: LAN ボードと内蔵ハードディスクは、いずれか 1 つの選択となります。
＊18: 拡張メモリーの追加が必要です。
＊19: 100BASE-TX/10BASE-T 共用です。それ以外の LAN 機器は 10BASE-T 専用です。

重要事項

ここでは、パソコンおよび周辺機器の使用環境、使用方法における制限な内容をまとめてあります。

パソコンおよび周辺機器を使用する環境について

・寒い場所では、室温を動作時周囲温度まで上げたあと 20 〜 30 分経過してからお使いください。
・暑い場所では、しばらく空調などを使用し室温が一定になってからお使いください。
・直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
・ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
・極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。また、湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
・腐食性ガスや塩分を多量に含む空気などは、パソコンおよび周辺機器の表面を化学的に腐食させます。そうなると、電子部品の接触抵抗が増加したり、可動部品の構造がもろくなり、パソコンおよび周辺機器の信頼性が著しく低下します。そのため、パソコンや周辺機器は腐食性ガス（ 特に亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアガスなど）や塩分を多量に含む空気などが発生しない場所に設置してください。
・パソコンを使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。
　このときは、一度パソコンの電源を切って立ち上げ直してください。

参照
最適な湿度について→『パソコンを準備する』付録の「パソコン仕様一覧」

パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて

・ハードウェアの故障に伴うデータやアプリケーションの破損については、補償いたしかねます。あらかじめご了承ください。
・Windows の立ち上げ中や使用中に強制終了すると、次回立ち上げ時にチェックプログラムが動くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がりますが、異常がある場合は HDD をフォーマットしないとパソコンが使用できない場合もあります。
・電源を切ってから再び電源を入れるまでに、必ず 10 秒以上お待ちください。連続して電源を入り切りする（瞬時停電も含む）と保護機能が働くことがあります。このときは、一度電源を切って、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜きます。10 秒以上経過してから AC アダプターの電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れてください。
・パソコンを立てかけて置くと、倒れた場合に壊れることがあります。絶対に立てかけないでください。
・パソコンは精密な電子部品で製造されていますので、衝撃を与えないでください。

・磁石やスピーカーなどの強い磁気を発生するものを近づけると、パソコンおよび周辺機器の故障の原因になります。
・ディスプレイを背中合わせに設置したり並べて配置する場合は、互いに少し離して配置してください。
・マウスは耐外来ノイズ性能が劣ります。マウスが誤動作する場合は、パソコンおよびその周辺機器の電源を同一のノイズフィルター付きＯＡタップからとることをお勧めします。
・マウスの内部に異物などが入ったときは、取り除いてください。異物が入るとボールがなめらかに動かなくなります。
・Windows 98 で MS-DOS プロンプトを使用する場合は英語環境にしないでください。正しく動作しないことがあります。
・電源スイッチを一度 OFF にしたら、再度 ON にするのは必ず 20 秒以上経過してからにしてください。20 秒以上経過しないと、パソコンが立ち上がらないことがあります。
・煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでパソコンを完全に包んでください。
・じゅうたんのある部屋でパソコンを使用したり、パソコンの使用中にひざ掛けなどを使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、パソコンおよび周辺機器に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。

通信について

・通信中や、HDD、CD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブ、フロッピーディスクドライブの読み込み、書き込み中には、パソコンの電源を切ったりソフトウェアリセットを行わないでください。

ディスプレイについて

・液晶ディスプレイの場合、液晶の特性上、表示するパターンによっては、画面がちらつくことがあります。
・パソコンの使用温度範囲は、10 ℃～ 35 ℃です。10 ℃未満の環境でご使用になると画面が暗くなったり、表示できなくなったりします。10 ℃以上のところで、電源を入れ直してください。
・ディスプレイ表面に水滴や指紋が付いたときは、すぐに拭き取ってください。
・節電機能に移行するとき、表示が一瞬、乱れることがあります。

HDD の容量表示について

HDD は、高密度な磁気ディスクにデータを保存する精密機器です。磁気ディスクには微小な欠点があり、これらの領域にはデータを書き込まないようになっています。
HDD のエラーチェックプログラムを実行すると、「不良セクタ」もしくは「スキップセクタ」が表示されることがあります。これは、データを書き込まない領域を表示しているだけで、HDD の不良ではありません。
取り付けられている内蔵 HDD の容量と、エラーチェックプログラム実行時に表示される「全ディスク容量」との関係は次の通りです。内蔵 HDD が複数のパーティションに分割されている場合は、各領域の合計値です。この場合、合計値が次の値以下になる場合があります。なお、＊は『パソコンを準備する』付録の「パソコン仕様一覧」の「 HDD 」の項目をご参照ください。

内蔵 HDD 容量	全ディスク容量の表示
＊ GB	＊× 1000000000 バイト以上

バッテリーの使用について

・ お買い求め直後、または長時間バッテリーを使わなかった場合、満充電にしても使用可能時間が短いことがあります。放電 (使用) と充電を数回繰り返すと元の使用可能時間に戻ります。
・ バッテリーパックは湿気の少ない涼しい場所で保管してください。
・ バッテリーパックには寿命があります。使用可能時間が短くなってきたら、新品と交換してください。
・ バッテリーパックの金属部分には素手で触れないでください。
・ バッテリーパックは次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因になります。
  ・電池の＋－端子間をショートさせない。
  ・火中に投入したり、60 ℃以上に加熱しない。
  ・落下などの強い衝撃を与えない。
  ・外装パックが著しく破損するような衝撃を与えない。
  ・濡れた布で金属部分を拭かない。
  ・水に濡らしたり、濡れた手で触れない。
  ・分解しない。
  ・火のそばや、炎天下、暖房器具の近くなどで使用、放置、充電しない。
  ・指定外のバッテリーパックを使用しない。
  ・液漏れしている場合には、素手で触れない。万一付着した場合は、流水で洗い流す。
・ 使用済みのバッテリーパックは、希少資源の有効利用のために、端子または接続コードにテープをはるなどの処置をしてから、充電式電池リサイクル協力店に持参していただくか、お問い合わせ先へ処分方法をお問い合わせください。

さくいん

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。
それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

・Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
・Intel は Intel Corporation の登録商標です。
・その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

ハードウェアを使いこなす

第 2 版　2002 年 6 月

株式会社　日立製作所
インターネットプラットフォーム事業部

〒 243-0435 神奈川県海老名市下今泉 810 番地

NW0603000-2